

令和2年度 公益財団法人こども教育支援財団主催 教育シンポジウムの報告

通い続けられる高校選びと保護者の関わり

～新型コロナウイルスと不登校～

令和3年2月11日（火・祝）にクラーク記念国際高校福岡校3Fホールにおいて公益財団法人こども教育支援財団主催の教育シンポジウムが行われました。今回は緊急事態宣言下でもあり、感染症対策のため午前の部（10:00～11:30）、午後の部（14:00～15:30）の2回に分けて参加者を限定して実施されました。午前の部（10:00～11:30）は21名、午後の部は12名で、中3生を中心に対象の御家族の方のほか教育関係者などが参加されていました。どちらも前半は不登校経験がある通信制高校の生徒さんのインタビュー。後半は私、ぼちぼちの会会長木村が講師として「通い続けられる高校選びと保護者の関わり」をテーマに講演をさせていただきました。

第一部では「公益財団法人こども教育支援財団」の斉藤先生が高2女子の通信制高校在生徒とインタビュー形式で進めていかれました。

高校入学前から現在の学校生活。気持ちの変化や、学校に通いながら学校生活・日常生活の中で困っていたことや、辛かったこと。保護者や周囲の人との関係。そして、してほしかったことや言ってほしかったことなど。自分の将来の進路についての希望や悩みなど、多岐にわたりました。最後に自分が頑張っていることや伝えたいことを話してくれました。

私のほうからはまず「学校に行きにくくなる子どもの原因はなぜだろうか。」と投げかけました。①コミュニケーションが苦手な人が苦手だとか②勉強がわからないとか③先生や友人とうまくいかない・・・その結果このままだと高校も行けないのではないかと心配してしまう。本当にそうでしょうか。その子どもに原因があって通えなくなっている？

実は、私の知っている子どもたちを見ると、その逆で「学校に通えなくなった結果、対人関係や学校集団生活が苦手になって自尊心が低下している傾向が強い。」それは、自分に合った学校に通えるようになってくると対人関係等も改善し、自尊心も上がってきて、進学・就職などに繋がっている子どもがほとんどだということからもうかがえる。

それは、今行けないからと言ってこれからずーと行けないのではなく、今できることにきちんとした対応ができて、自尊心が保たれていれば、時期が来ればそれなりの行動に変化ができてくるということです。一番大切なのは、「本人の自尊心を低くしないこと」。そのためにはできないことに執着するよりできることに目を向けて、ひとつずつ取り組んでいくことです。目先の一つが片付いていくことで視界が広がることもあります。終わりに「このようなことをベースに今一番必要な学校の条件を考えることの大切さ」「行ける学校より行きたい学校」「自尊心を持って進学する」など話をさせていただきました。



シンポジウム感想

①自尊心を低くしないというお話が印象に残りました。できないことをがんばらせるのが日本の教育というお話で納得しました。私も無意識にそういう視点で子どもを見てしまうので、できることを認めるような毎日していきたいです。

②できることに目を向ける、つい忘れてしまいがちです。改めて、心にきざみました。

③全日制へのこだわりの強さ、‘ノーマル’という刷り込みを、意図せずとも中学校の教員がしているのだろうな、と気づかされました。よくないことですね。

③在校生の方が、多くの大人の前でしっかりと話をしてくれてとても感動しました。これからも自分の数年先を見すえてがんばって下さい！

④高校2年生の生徒さんのお話は体験に基づいた、内面の揺れ動きが非常によくわかりました。お話もとても上手でした。

⑤〈第1部〉

「不登校だと高校も行けないとまわりは思うんだな、自分ができると思っているのに伝わらないんだな」「修正はいつでもできる」刺さる言葉でした。

〈第2部〉

今できることと今はできないことに分けて行動。できることを決めるのはとにかく自分、という部分。否定していないつもりでも、子どもには否定とうつつている可能性があることに気をつけようと思いました。

⑥通信制高校の在校生の方の高校は毎日出席する、不登校だった自分が毎日行けることを証明したいという言葉が印象的でした。

⑦自尊心が上がるようにまず少しずつできることを積み重ねていけたらいいというお言葉が印象深かったです。不安になっている時に、私もそういう声をかけ共にゆっくり進んでいければと思います。本日はありがとうございました。

⑧自分で決めさせる事、今できることとできない事をわかる事、それぞれわかっているつもりでもなかなか実践できず、我が子にできない事をできるように無理強いさせているとったり、反省しつつ、今後に活かそうと思います。

⑨進路について「合否は相手が決めることで受けることが大切」という言葉に、本当にその通りだと感じました。

⑩生徒さんの体験談を聞いて、不登校になる理由がちゃんとあるんだな。と思いました。第2部の先生のお話は具体的でとても参考になりました。

⑫「自尊感情の向上」と生徒さんが話してくれた自分の気持ちがとても伝わってきました。第2部の講演とつながっていると感じました。

まだまだ悩んでいる方々、たくさんいると思います。何か出来ることを考えていきたいと思います。

⑬通信制高校の在校生の方の言葉がストレートに伝わってきました。とても客観的にご自身を見ておられて、国立を目指すにもいい選択だったのか？と冷静に分析されていたのが印象的でした。失ったものがあるけど、今できることを考えているので、それを伝えてくれたことに感謝します。

⑭在校生の方の話を聞いて、不登校の原因として、行けない、行きたくない以外に「行かない」と決めている生徒もいるのだなと思いました。

⑮不登校になる原因を、本人から探すということが大きく間違っていました。

主催：内閣府認定 公益財団法人 こども教育支援財団 東京大志学園
共催：クラーク記念国際高等学校 福岡中央キャンパス

2020年度 こども教育支援財団 教育シンポジウム

登校が不安定な子の高校選び

現在、様々なタイプの高校があり、様々な入試があることをご存知でしょうか？
お子さんにあった高校を選べば、入学後の通学や勉強を無理なく続けることができます。
また、AO入試、自己推薦入試など学力一辺倒ではない入試方法も増えています。
高校に進学した生徒さんの体験談を聴き、高校進学について一緒に考えてみませんか。

日時 2月11日(祝・木) 午前の部 10:00～11:30
午後の部 14:00～15:30
場所 クラーク記念国際高校福岡中央キャンパス ホール
福岡市中央区平尾1-7-1

内容 定員 各部 30名
午前の部・午後の部 同じ内容です
対象：中学生、保護者、教育関係者

第1部 経験者が語る体験発表
「私の高校選び」



第2部 講演
「通い続けられる高校
選びと保護者の関わり」



講師：木村素也 先生
(不登校生保護者会「ぼちぼちの会」会長)

参加費 500円 (資料代として)

お申込み方法 申込締切 2月9日(火)
【参加特典】東京大志学園オリジナル教材『高校入学までの5つのステップ～書き込み式ワークブック～』(非売品)プレゼント

メールでのお申込み fukuoka_info@kodomo-zaidan.net
「教育シンポ希望」と件名に明記し、■参加者名 ■郵便番号・住所 ■電話番号 ■職業 ■お子様の学年 ■申込人数 ■本会を知ったきっかけ を記入し、メールをお送りください。

右記URLより申込み <http://www.tokyo-taishi.net/campus/fukuoka>



★東京大志学園は、公益財団法人こども教育支援財団が平成13年より運営する不登校児童生徒の学校復帰・進学を支援する教育支援機関です。全国13都市に教室があります。